

## 未配置問題・学校現場の調査より

\* 「すぐに着任」の所も入れてあります。

		24年度の実態					25年度				
		休み始めた人			学校での対応		4月からの未配置		減らされた加配		
番号	自治体	学校名	校務分掌	理由	時期			種別	対応	その他	
1	⑯	A小	4年担任		6月から3月	教頭が担任。9～11月は時間講師（体育・図工・書写など担当）が配置。また、半日勤務の者が週8時間補助に入る。加えて、時間講師が社会科担当で入る。	なし	理科専科	教頭・主幹教諭等が入る。	校内支援ルームを設置したが、他の校務分掌などもあり、担当者が常時そこにいることが出来ない。また、級外教員（他の職員）も少なくなり、子どもだけの時間が出来ている。子どもの安全や学力保障が難しい。専科の引上げは止めてほしい。また、初任者など年次研修の対象者が増え、その人達の校外研修の際の補欠が十分に出来ない。	
								外国語専科	専科をおくことを断念。担任が授業。		
								病弱学級担任	対象児童が転出のため		
2	⑰	D小中	中学校体育・知的学級担任	病休	9月末～11月末	教頭が体育を担当。知的学級は、該当の3年団が交替で授業。					
			養護教諭		1月末～4月現在	体調不良対応や身体測定などは全教員で対応。書類などは教頭が対応。	養護教諭				
3	⑱	G小	病弱担任		すぐに着任	特別支援教育支援員が小学校免許を持っていたので、そのまま講師として採用し、担任になってもらった。					
4	⑰	S中	事務		すぐに着任						
			事務		すぐに着任	先読み加配が着いていたが、その人はすぐに辞めた。その後、新たな人が着任。					
5	⑲	Q小中	中学校国語		すぐに着任	講師が着任。		?	24年度に比べて、1名減。	中学校が複式になり、教員が一気に3名減。臨時免許や免許外担当が多発。受験科目の免許を持った人がいないのは困る。小学校は、完全複式なると、教頭が担任。その分、他の教員に負担がかかる。	
6	⑲	R小	3・4年担任		10～12月	特別支援の担任が、3・4年の担任に。特別支援学級の子どもは交流学級の先生が担当。					
			養護教諭		すぐに着任				特別支援教育支援員		
7	⑲	T小	病弱学級		4～5月	教頭が担任					
			6年担任		1～3月	教頭が担任					
8	⑩	N小中	中学校国語	育休	すぐに着任	1年間、臨時教員が着任				24年度の育休者は、4/22に復帰。それまでの期間は、時間講師が他の中学校と兼務で着任していた。	
9	⑩	Y小	2年担任		5月～6月末	教頭・別なクラスの担任が授業				5/30から2年生の担任が産前休暇の予定。講師着任の目処は立っていない。（前倒し加配も実現していない。）	

\* 自治体番号は、別紙「代替教員配置の実態調査」と共通です。但し、⑩のみが一致で、⑯以降は地教委調査未回答の自治体の学校です。

\* ⑲は、教育長より口頭で「地元で探した人もおり、未配置はありません。」と回答頂いたところです。